

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	三井亮司
所属機関名	生命科学部・生物科学科
職位	教授
在籍年	26 年

教育の責任

大学教育の責任とは、特定の学問領域に対して学生が抱く漠然とした憧れや興味を、具体的な専門性の獲得および社会的貢献への意識へと発展させることであると考えます。多くの学生は興味がある、面白そうだ、という感情を出発点として入学するが、それを体系的な知識、技術、そして将来の進路選択へと結びつけるためには、段階的な教育が必要である。学生の出発時の動機を尊重しつつ、専門性へと結びつけることが大学教員の責務である。

教育の理念

高校までの受動的な学習様式から脱却し、自ら問いを立てて探究する姿勢を育成することを教育理念の中心に据えている。そのため、教員は単なる知識の伝達者ではなく、学生と立場を尊重し合いながら共に真理を追究するパートナーであるべきだと考える。学生が未成熟な考えであっても自由に発言し、議論を通して思考を深められる環境を整えることが重要だと考えている。とりわけ卒業研究においては、学生の興味と教員の専門性を対話によってすり合わせる過程を重視している。研究テーマは与えるものとしてスタートするが、対話を重ねながら学生が自らの成果とを感じる研究とするため、学生と同じ目線で進めることを信条としている。

教育の方法・方針

座学講義においては、主体的学習の基盤形成を目的として復習を重視した授業設計を行っている。講義では可能な限り板書を用い、手を動かすこと、またどう思うかなどの問いかけの繰り返しにより学生が授業に参加していることを実感するように心がけている。毎回の講義終了後には mylog を通じて復習課題を提示している。課題は講義ノートを参照すれば解答可能な内容とし、復習への心理的負担を軽減している。未提出に対する減点を行わず、加点を原則とする方針を伝えて自主的学習を促す。次回講義はそのフィードバックから開始し、反復による知識定着を図っている。これにより、一週間の講義間隔による空白を埋め、短期記憶を長期記憶へと移行させることを目指している。さらに、教員に直接質問を行うことへのハードルを下げるため、オンラインでの出欠確認とあわせて毎回コメントや質問を受け付け、質問事項にメールでやりとりを行ない双方向性を担保することで、講義を単なる情報伝達場としないよう意識している。研究指導においては、対面でのディスカッションを最も重視している。実験結果の成否にかかわらず、得られたデータを自らのタイミングで持参させ、学生自身の考察を提示させる。その上で教員側の視点を加え、双方の考えをすり合わせる過程を繰り返す。あらゆる結果から意味を読み取る力を養うことが、研究の本質理解と論理的思考力、自主的探求につながると思う。

教育の成果

座学講義では、毎回の復習課題の解説を該当学期中 mylog 上に掲載しており、学生が自身のノートと併用して再学習できる自主的学習環境を整備している。授業評価では、復習しやすい、理解を確認できるといった肯定的な意見が寄せられている。また、毎回コメントや質問が提出されており、講義への参加の意識付けができています。研究指導では、研究の途中段階から複数回の口頭発表機会を設け、成果を整理する機会を確保している。自ら作成したレジュメやプレゼンテーション資料を通じて、論理構成力や表現力の向上を実感する学生が多い。研究開始時と終了時を比較すると、思考の深さや議論の精度に明確な成長が認められる。さらに、研

究内容と将来の職業との関連性を意識させることで、学習への動機づけの向上にもつながっている。

今後の目標

これまでの教育方針を基盤としつつ、学生の価値観や学習環境の変化に柔軟に対応していく必要があると考えている。授業評価や学生からのフィードバックを分析し、教育方法・方針に反映することを継続的に行う。

根拠資料

授業評価、講義毎の質問やコメント、メールのやりとり。